

前川区長と秋元館長が語る 「美術館再整備」

みどりの風吹くなか誰もが優れた文化芸術を
楽しめるまちにしたい。

美術館再整備はその大きな一歩。 (区長)

練馬区長

前川 耀男

練馬区立美術館長

秋元 雄史

秋元 雄史 練馬区立美術館長
地中美術館（香川県直島町）や金
沢 21 世紀美術館、東京藝術大学大
学美術館の館長を歴任。平成 30 年
度より練馬区立美術館長に就任。

仕事帰りにちょっと寄ってくつろげる、
住宅都市ならではの美術館にしたい。(館長)

区長 私は練馬に 37 年間住んでいます、それは単純に練馬が好きだからです。都心に近くてみどりが多くて農地があって、大空がある。ただ区民として不満だったのは、行政が内向きで洗練されていないところでした。その理由のひとつは、鉄道や道路などの都市インフラの整備が遅れていたこと。74 万の区民が住む大都市にふさわしい都市インフラがあってこそ、初めて文化の花が咲くと思います。もう一つは文化そのもののインフラが物足りないこと。東京の練馬ならではの都市文化を花開かせたい。それが私の念願です。その大きな一歩が美術館の再整備です。そのために是非実績があり、力がある方に館長になってもらいたいと、秋元さんを探し当てた（笑）

館長 お声がけいただいて、やりがいがある、光栄なことだと思ってお受けしました。この美術館も 36 年経って、これまで地域型的美術館のお手本としてやってきたところもあると思います。その美術館を今の時代に合わせてリニューアルしていくというのはなかなかやりがいのあることだなと思っています。

区長 洗練された都市文化というのは、ヨーロッパなどを見ると、街の中心には必ず教会と美術館がある。やはり「まちと一体となった美術館」というのがひとつポイントになると思います。美術館の再整備をきっかけに、是非実現したい。

館長 ありがたいことに中村橋の駅からすぐのところにありますので、商店街もありますし、まちを歩いていたら自然と美術館の中に来てしまうような、そんなまちとつながりのある美術館にしていけたらいいと思います。

区長 都心そのものではないが、本格的な郊外でもない。その中間にある都市として色々メリットがあると思います。都市農業が残っていて、それを逆に利点として、みどりと農のなかの美術館、なんていうのもいい。

館長 そうですね。都心に行かなくても住んでいるところでアートや音楽が体験できるというのは非常に楽しいと思います。例えば仕事帰りにちょっと美術館でも寄ってゆっくりくつろいで。作品見て、食事して、お酒でも飲んでから帰るとか。そんな使い方をさせていただけるといいなと思っています。

区長 いいですね。居酒屋のような使い方とは違うのだろうけど（笑）。敷居が低いというのは大事。そして敷居は低いだけけど、しっかりといいものが見られるところでないと。

館長 エントランス辺りとかはリラックスしながら居てもらえる空間があって、でも本格的な作品が置いてあったりとか、ガラス越しに展示作品が見えたりして、実際入っていくといいものがあるというのがいいですね。

区長 23 区でも図書館と一体となっている美術館というのはないですから、これも非常に面白いですね。

館長 文化的な体験は、視覚的な芸術を通して、文字を通してもあるので、教養を深めていく場として個性的な美術館・図書館になると思います。

区長 区民の方々も様々な文化的な活動をされていて、美術館がその活動の舞台となって欲しい。東京のなかでも北部の拠点にできるといいですね。

館長 活動を発表するだけでなく、他の方たちの活動も見られる、文化的なコミュニケーションの場になっていけるといいかなと思います。

